市区町村名	愛媛県伊方町	担当部署	総合政策課まちづくり政策係
		電話番号	0894-38-2659

１　取組事例名

民間連携による伊方町チャレンジフィールドプロジェクトの構築

２　取組期間

令和３年度～（継続中）

３　取組概要

令和３年 11 月に東京のＩＴ企業である株式会社スカラと地方創生に関する連携協定を締結し、町の課題解決に向けた連携事業としてプロジェクトをスタートしました。伊方町を「スタートアップ（創業・起業に意欲ある者）」の実証フィールドの場として、「注力テーマ」に係る課題解決に必要なフィールド調査や「ＩＫＡＴＡモデル」の作成を通じ、課題解決に挑む人々が集まる共創基盤「伊方町チャレンジフィールド」を構築することにより、町民に挑戦するエネルギーを醸成し、持続可能な発展をもたらすプロジェクトを展開しています。

４　背景・目的

伊方町は高齢化と過疎化の影響により、直近 10 年で人口が約２割減少し、町民の約半数が 65 歳以上の高齢者となり、介護保険・健康保険など高齢者福祉に関連する支出が年々増加しています。町の持続的発展は町民の健康長寿を前提としており、それぞれの集落において町民が自発的に介護予防や健康づくりに取り組むことは必要不可欠です。こうした中、コロナフレイルと呼ばれる新たな脅威も出ており、対策はもはや「待ったなし」の状況となっています。

伊方町初の民間事業者との連携協定を株式会社スカラと締結したことを契機に、役場と民間事業者の立場を超えて、アイデアを出し合い、町を社会課題の解決に挑むスタートアップ等のフィールド調査や実証実験の場として位置づけ、３ヶ月毎に町民ニーズの仮説検証を繰り返す共創基盤の構築をコンセプトに「チャレンジフィールドプロジェクト」を立ち上げました。町が最も力を入れて取り組んでいる高齢化の諸課題について、本事業では町内に点在する集落をＩＴによって結び、自立的な健康づくり、買い物、共食など介護予防に繋がる様々な取り組みを進行しています。

５　取組の具体的内容

【令和３年度事業（令和４年１月～３月）】

１　注力テーマ

「お」いかた　※伊方（いかた）町の名にちなんで「　」いかたで表記

高齢者の健やかな暮らし方・生き方をテーマに、各集落の集会所等を拠点にＩＣＴを活用した共助による健康管理サービスや買い物、食事などのＩＫＡＴＡモデルを作成

２　実　績

・集落の高齢者の活動状況を踏まえ、モデル地区を３地区選定

二名津(二れあいカフェ)・三崎(日だまり会)・湊浦(ふれあいサロンみなと)

・令和３年度は二名津地区においてデータ収集や実証実験を実施

項　目	実施内容
データ収集・分析	【イベント形式で血管年齢等のデータ収集】 ・体重体組成計を使用し、測定したデータに基づき、保健師からアドバイスを実施 ・集会所のオンライン環境を活用して都内の看護師と繋ぎ、測定結果の指標に関する解説
実証実験	【ＭＵＳＩＣ健康体操】 ・第一興商とコラボして、音楽のある環境で運動や体操を行うプログラムを作成し、音楽健康指導士の指導により実施 【顔パスで買い物実証実験】 ・町が実施する健康ポイント事業と連携し、住民の顔認証によって町内で買い物ができるモデルづくりに着手 ・インドネシアのスタートアップ「duithape（ドゥイトハペ)」とコラボ。顔認証によって「顔パスで買い物」の疑似体験を実施
ＩＫＡＴＡモデルの提案	シンプルで分かりやすく楽しいもの、そして続けられる手軽さが設計上必要とし、以下の内容を提案 ・「健康を知る」機会を馴染みのある IoT デバイスで創出 ・「楽しみながら健康を作る」際に、歌と音楽の力といったエンタメを掛け合わせて実施 ・「持続可能な取り組み」の観点で、指導者の育成や顔認証で健康ポイントが積み立てられて買い物もできる仕組み等の構築

【令和４年度の取り組み】
・令和３年度実績の検証を踏まえ、事業の具現化を図る。
・町が目指す「集落のグループホーム化」の実現に向けて、集落機能を維持するための高齢者の健康づくりに関連して、継続テーマである「おいかた」をメインに、「医療のかかり方」「拡げ方」「食べ方」「乗り方」の４つの注力テーマを掲げて、仕組みづくりを検討

テーマ	取り組み概要	対象地区等 実施時期
「お」いかた	集会所等を拠点にＩＣＴを活用した共助による健康管理サービスや買い物、食事などのＩＫＡＴＡモデルを作成	モデル地区 通年
（医療の） 「かかり」かた	町内の診療所等に縛られず、集落の高齢者が集会所等を拠点にＩＣＴを活用した医療サービス等が受けられる仕組みづくりを検討	大久地区 第１四半期
「拡げ」かた	取り組みの拡大を図るため、モデル事業を町内外に発信する仕組みづくりを検討	八西ＣＡＴＶ 第２四半期
「食べ」かた	孤食解消を目指し活動を行う団体を中心に、作る人・食べる人の垣根を超えて、みんなが誰かのために作る喜びを分かちあえる仕組みづくりを検討	三崎地区 第３四半期
「乗り」かた	加齢とともに困難を伴う高齢者の移動需要について、地域の配食や買い物のニーズも踏まえたハイブリッド交通の創出に関する仕組みづくりを検討	地区選考中 第４四半期

６　特徴（独自性・新規性・工夫した点）

「集落のグループホーム化」をテーマに、集会所等を拠点にＩＣＴを活用した共助の仕組みづくりを進めます。顔認証技術を用いたキャッシュレス決済の仕組みを活用し、集落の高齢者が行う血管年齢測定や介護予防の継続的な取り組みに対し、町内で貨幣として利用可能な健康ポイントを付与し、買い物や診療所、地域巡回バスなどの顔パス利用を実現します。また、一連のデータ蓄積を通して、健康長寿プラットフォームの形成を目指します。

７　取組の効果・費用

高齢者にとっては不慣れなＩＣＴを活用した取り組みになりますが、シンプルで分かりやすく楽しいもの、そして、続けられる手軽さを提供することで、参加者にも好評を得ており、実証実験の有用性を確認しています。今後、事業実施により目指す成果（数値）としては以下のとおりです。
・顔パスを利用する高齢者数 2,000 人（町内の高齢者の約半数）
・健康ポイント利用による年間経済効果 2,000 千円
・健康寿命の延伸 ＋3 歳
・高齢者福祉支出の削減 1～3%（△10,000 千円～△30,000 千円）

８　取組を進めていく中での課題・問題点（苦労した点）

集落の高齢者は、スマートフォンやクレジットカードを持っておらず、鉄道を利用する機会も少ないことから、交通系 IC カードやその他キャッシュレス決済を利用できず、現金を前提とした経済活動を続けざるを得ない状況にあります。また、不便な場所では、年金を銀行口座から引き出しに行くことも加齢とともに困難さが増しているとの声もあります。

顔認証と健康ポイントとの紐付けにより、買い物の利便性と健康づくりの動機づけを目指していきます。また、高齢者にも馴染みやすいデバイス（電子血圧計）を用いて、血管年齢データを日常的に取得するとともに、地理的な制約を超えて、オンラインで専門家とコミュニケーションを図り行動変容を促していることに加え、持続可能な取り組みとすべく、担い手確保の観点から市民音健士の養成やスタートアップの招致にも着手しています。

９　今後の予定・構想

全国にも増して深刻な高齢・過疎の状況を逆手に取り、町を健康長寿実現のための産官学によるオープンイノベーションの場として特徴づけ、戦略的に発信していきます。特に、介護保険、健康保険に関するデータが町直営のために取得しやすい環境にあることを強みとして、町民の自主的な介護予防や健康づくりなどの取り組みに関するデータ収集基盤を意欲的に構築し、データ分析に基づく健康長寿を「IKATA モデル」として展開します。健康長寿を志向する新産業の町内誘致を促進するとともに、健康長寿「IKATA モデル」の社会実装によって、日本のみならず、国際社会が推進する SDGs 達成にも貢献していきます。

１０　他団体へのアドバイス

自治体の役割が複雑化・多様化し、業務は質量ともに増大しているなか、町が抱える重要課題の解決に向けては民間連携が必須な時代だと感じます。民間の持つ多様なノウハウや技術、ネットワークを活用して、限られた予算の効果的な活用と業務の効率化を目指し、サービスを向上させていきましょう。

１１　取組について記載したホームページ

ホームページ掲載はありませんが、町の広報誌を参考に添付します。

ICTを活用した高齢者の健康管理サービスのモデルづくり始まる ～伊方町チャレンジフィールド～

町民の２人に１人が高齢者となる超高齢化社会を迎える伊方町において、高齢者の健康長寿と健やかな町づくりを目指して、ICTを活用し、町内に点在する集落の高齢者の日常的な健康状態のチェックと、専門家による健康づくりのアドバイスを行う実証実験を1月12日より開始しました。

本取り組みは、ICTの活用によって、社会課題解決を目指す㈱スカラと伊方町の連携協定のもと、主旨に賛同する町内の高齢者団体の参画によって実施されました。

第一弾は、二名津で活動中の「二れあいカフェ」の呼びかけにより、集落の高齢者約30名が参加し、専門家の指導のもと、血管年齢などを測定しながら、自身の健康状態について知り、健康維持や介護予防のために、心がけたい運動や食事の内容について学びました。

また、測定内容にもとづき、都内の看護師とリモートでコミュニケーションをする実験も行われました。

今回の測定結果に関して、一喜一憂する参加者の姿も見られましたが、日々の行動によって数値は改善できるため、団体の今後の活動と連携しながら健康づくりや介護予防に活かしていきます。

参加者の中には、加齢とともに、自身の健康状態に関する心配も増しているので、仲間が集まる場（二れあいカフェ）を通して、こうした情報が得られることは嬉しいとの声もありました。

町では、健康づくりに関連して、高齢者の買い物や食事なども含め、町民に求められている健康管理のモデルづくりもチャレンジフィールド事業の中で進めていきます。こうした取り組みを介して、人生100年時代を踏まえ、健康で永く生きられ続ける高齢者の方々が一人でも増えていくことを目指します。

コロナ禍でも楽しく「介護予防」!
カラオケDAMのブランドでお馴染みの第一興商とコラボ

うたと音楽の力で健康介護予防

ICTの活用によって、社会課題解決を目指す（株）スカラと伊方町の連携協定のもと、高齢者の健康長寿と健やかな町づくりに向けた取り組みが進んでいます。

第２弾は、「介護予防」について、楽しみながら継続できることを目標に、同分野において長年研究を重ね、幅広い実績を持つ第一興商とコラボして、生活総合機能改善機器「DK ELDER SYSTEM（ディーケーエルダーシステム）」を用いて、音楽のある環境で運動や体操を行うプログラムを作成しました。

音楽健康指導士（地元松山支店のインストラクター）のもと、３月９日に二名津体育館にてプログラムが実施されました。今回も、主旨に賛同する町内の高齢者団体（二名津で活動中の「ふれあいカフェ」）の呼びかけにより、集落の高齢者40名弱が参加しました。

口のまわりの筋肉を鍛えることで飲み込んだり話したりする機能の衰えを防ぐことを目的として、「春が来た」の歌詞を、口や舌を大きく使って発音する「パ」「タ」「カ」「ラ」の4文字に置き換えて歌いました。また、記憶力を鍛えるため、一部が空白になっている歌詞カードを見て歌詞を思い出しながら参加者たちは「津軽海峡・冬景色」をときどき歌詞を間違えながら、楽しそうに口ずさんでいました。コロナ禍でも楽しく介護予防に取り組んでいる様子が地元メディアでも放送されました。

IoTデバイスを用いた血管年齢を測定

1月に続き、今回も希望者がIoTデバイスを用いて自身の血管年齢を測定しましたが、血管年齢が実年齢よりも高かった高齢者グループは、普段よりも意識して発声や有酸素運動を行うなどデータを活用した介護予防の取り組みも始まっています。

今後、複数の拠点（集会所など）をオンラインで同時接続するなど、地域を超えて楽しく取り組めるプログラムに発展させていくことを目指します。

伊方町チャレンジフィールド

「顔パス」で買い物実証実験

海外スタートアップと実現

ICTの活用によって、社会課題解決を目指す（株）スカラと伊方町の連携協定のもと、高齢者の健康長寿と健やかな町づくりに向けた取り組みが進んでいます。

第３弾では、町民の持続的な健康づくりを応援するため、町が実施する健康ポイント事業と新たに連携し、健康イベント等に参加した町民の「顔認証（顔パス）」によって、健康ポイントを積み立て、町内の買い物などに活用するモデルづくりに着手しました。

今回も、主旨に賛同する町内の高齢者団体（二名津で活動中の「二れあいカフェ」）の呼びかけにより、集落の高齢者10名弱が参加しました。

３月22日、二名津の集会所に仮店舗が設けられ、店員役のスカラ社員がスマートフォンの専用アプリで住民の顔を読み込むと、約１秒で本人確認が完了しました。参加した住民は事前に顔写真を撮影し、仮の健康ポイントとともに登録し、段ボールに入った野菜などから欲しい商品を選んで本人認証し、暗証番号と金額をスマホに入力すると支払いが完了しました。

スマートフォンを持っていない高齢者も顔パスによってキャッシュレスで買い物ができる仕組みを実現しているインドネシアのスタートアップ企業「duithape（ドゥイトハペ）」（※）と新たにコラボし、高齢者の健康長寿と健やかな町づくりに向けたオープンイノベーションを更に加速し、住民の買い物の利便性の向上と健康づくりの動機付けを目指します。

※
インドネシアのスタートアップ企業「Duithape（ドゥイトハペ）」の公式サイト
https://www.duithape.com/

健康ひろば

健康ひろばでは、健康に関する情報や行事をお知らせします。